

◆南あわじ市少年相撲府中大会（9月3日・府中八幡神社）
 「4年生の部」①島田聖也（神代）②藤本直希（榎列）③波戸貴希（松帆）



▲島内から約1000人の方が大会に参加し、スポーツで交流を図りました（グラウンドゴルフ）

◆全淡スポーツ大会兼平成17年度淡路地域交流祭世代間交流スポーツ大会（8月28日・サンライズ淡路ほか）
 3位に入賞した市内のチームの紹介
 「ソフトバレーボールファミリーの部」①緑
 「ペタンクトリップルス」①南淡B③三原A、南淡A
 「ペタンクダブルス」③南淡A
 「女子バレーボール」③三原
 「グラウンドゴルフ」③南淡A

スポーツ

各種大会結果

（敬称略）



「5年生の部」①山本哲也（松帆）②福岡翔輝（八木）③前川優太（榎列）
 「6年生の部」①森本竜司（福良）②斉藤佑弥（八木）③前野礼人（榎列）
 「団体戦」①八木A②賀集A③榎列A
 ◆緑地域職域対抗ソフトボール大会（9月4日・サンライズ淡路グラウンドほか）
 「1部」①イズミフードマシナリA②ワールドインダストリー
 「2部」①緑窯業（株）②淡路紙工（株）
 「3部」①イズミフードマシナリB②JAあわじ島
 ◆南淡夏季開基大会（8月21日・南淡公民館）
 「A級」①児玉寿（広田）②中山隼希（洲本市）③加地耕史（倭文）
 「B級」①船本和男（市）②溝口節夫（福良）③斉藤文也（榎列）
 「C級」①森明司（八木）②

文化・その他

ホームページグループ参加者の募集

現在、下記の公民館を拠点にホームページグループ（HPG）を開設し、公民館事業をはじめ各地域の情報発信のためのホームページを作成しています。

- ・南淡公民館
- ・賀集公民館
- ・北阿万公民館
- ・阿万公民館
- ・灘公民館
- ・沼島公民館

経験の有無を問わず、各自の得意分野でいっしょに楽しく学びあい、助けあっています。

それぞれのHPへは、南あわじ市ホームページリンク集から簡単にアクセス出来ます。

■問い合わせ
 各公民館へ（電話番号は22ページに掲載）

南あわじ市観光協会ホームページを開設

市内の観光、宿泊、グルメ情報等を満載したホームページを9月1日から開設しました。

ホームページでは各種イベント情報等を随時お知らせします。また、市内に訪れた方々の感想やおすすめ情報等を投稿するコーナーもあり、親しみやすいページになっています。

ホームページアドレス
<http://minamiawaji.info/>

■問い合わせ
 商工観光課 ☎37-3012

森本公子（伊加利）③井筒政夫（榎列）
 ◆南あわじ市子ども会仲良し将棋大会（8月28日・三原公民館）
 「低学年の部」①安藤拓成（福良小）②久保坂直輝（賀集小）③西川大成（福良小）
 「高学年の部」①太田大貴（八木小）②雨堤翔哉（辰美小）③辻川幹大（八木小）③庄司高之（辰美小）

「中学生の部」①村上倫世（三原中）②岡本真衣香（同）
 ●●●●●案内●●●●●
 各種スポーツ・文化の大会等の結果は、この欄で掲載します。大会結果と大会事務局の連絡先を秘書広報室までEメールまたはファックスにてお送りください。
 ☎43・5102、Eメール：kouhou_toukei@town.minamiawaji.hyogo.jp

編集室から

川卓「5年に一度、日本中で行う統計調査『国勢調査』が今日やってきました」
 M典「市内に子どもや高齢者が何人住んでいる？とか、どんなお仕事をされているのか？とか、今後まちづくりをするうえで大切な調査です」
 川卓「ところで南あわじ市には何人住んでいるんでしょう？」
 M典「平成7年は56664人、平成12年は54979人だったから・・・うーん。皆さんも一緒に考えませんか？」
 ◆人口当ってクイズ
 ▼応募方法 ハガキに予想人口（1の位まで）、郵便番号、住所、電話番号、氏名を明記。お1人様1回に限る。10月20日までの消印有効。
 ▼応募先 〒656-0472 市善光寺18-27 南あわじ市総務部秘書広報室
 ▼賞 びつたり賞1名（近いで賞含む）Ⅱ加地亮選手のサイン入り色紙、おしかったで賞（10名）Ⅱ素敵な賞品
 ▼人口発表 12月末公表の速報集計人口を2月号に掲載
 ▼当選発表 当選者の発表は商品の発送に替えさせていただきます。

交通規制のお知らせ

第15回 四実業団連盟（中部・北陸・関西・中国）合同 淡路島女子駅伝競走大会

●淡路市「しづかホール」前スタート～都志大宮折返し～南あわじ市「南淡公民館」前ゴール（6区間42.195km）●



北阿万地区下水道工事 夜間通行止めのお知らせ

北阿万地区下水道工事に伴い、県道洲本南淡線の吉見電気前からハツ又池にかけて、夜間通行止めとなります。

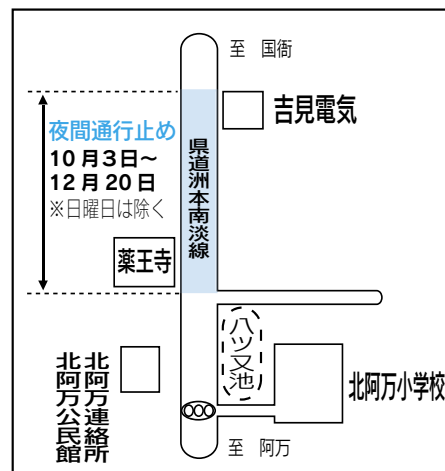
ご協力をお願いします。

●期間 10月3日～12月20日（日曜日は除く）

●作業時間 午後9時～午前6時

●迂回路 誘導・案内は交通整理員、看板等で行います。

●問い合わせ
 下水道課 ☎50-3039



防災のこめ

イベント的訓練から頭の防災訓練へ

まちづくり・防災課 ☎50-3035

今、防災訓練のあり方について、見直されてきています。これまで、防災訓練というと、市役所や消防、警察、自衛隊、医療機関、水道、ガス、ボランティア団体など防災関係機関が集合しておこなうイベント型訓練が主でした。ここで問題なのは、本来「主役」となる住民が単なる見物人になってしまっていることが多い事実です。

大災害が発生した場合、防災関係機関は、訓練時のような力は発揮できません。これから防災機関が本場に機能し始めるのは、災害発生後、数時間または数日後であるのが事実です。新潟県中越地震や台風十四号など大災害が頻繁に起きていますが、身近な市町村、消防団、消防署、警察署、自衛隊は少人数であり、救助活動に百パーセントの力を発揮しても追いつきません。

ではどうすればよいのか？災害初動時に一番力を発揮するのが、自助・共助の自主防災です。防災の基本は「自助・共助・・・公助Ⅱ7・2・・・1」で

あると考えられています。地域では、自分たちにはどんな訓練が必要なのか？それを主体的に考えることから始めなければなりません。避難するにはどうすればいいの？高齢者をどのように避難させるか？家族の安否確認の方法は？など。身近な課題を検討することも立派な訓練です。それを毎年、地域の防災訓練として実践し、反省点を次の訓練に生かしていくことが大切です。

一方、行政は、情報伝達手段の確保、多数のボランティアの受入、災害医療、ライフラインの早期復旧、災害ゴミの処理などを関係機関と連携して、どのようにすればスムーズに行えるかを検討し、訓練すべきだと考えています。

イベント型訓練はそれなりの効果もありますが、見た目ほどの効果は大きくありません。住民一人ひとりが、いかに自分の問題として捉え、いかに真剣に考えるか、実質的な防災訓練のあり方を考えていきましょう。